

長岡税務署管内税務団体連絡協議会 会長賞 優秀

税で見えた人との繋がりがり

新潟県立長岡大手高等学校

三年 久保 七晴

私が税について考えるようになったのは、コロナ禍の厳しい社会状況を目の当たりにした事がきっかけだった。

2020年4月7日、新型コロナウイルスに対する、初の緊急事態宣言が発表された。同月の16日、緊急事態宣言は全国に適応されることになった。この宣言によって、飲食店は時短要請を余儀なくされた。また、不要不急の外出を控えるように自粛要請も発表され、私たちの生活が、社会全体が落ち込んだ雰囲気となった。「このままでは生活することができない。」このような言葉を何度も耳にした。現在の社会状況を少しでも打破するために、様々な財政措置が行われた。そして、政策には税金が使用されている。

税金の大部分は、社会保障や地方交付税のために使用されている。コロナウイルスに関する措置としては、飲食店には持続化給付金、家賃支援給付金、時短要請協力金や、雇用調整助成金などが支給された。国民には、一律の給付金が支給された。特に私は、給付金の恩恵を感じた。社会の経済力

の低下に伴い企業の業績も低下した。両親の会社も例外ではなく、危機の煽りを受け、休業もし、収入も減少した。このような状況の中で給付金を受け取ることができ、生活の助けにすることができた。受け取った際に私が思ったことは、「このお金は誰かが支払ってくれたものだ。」という感謝の思いだった。今までは税金の使われ方を意識した事はほとんど無かったが、今回の出来事で税に、そして、税金を払っている人々に支えられていることを実感した。

また、私たち高校生も直接税を払っているのではないが、消費税や間接税という形で税金を支払っている立派な納税者である。私が払った税金も誰かの元に届いている。誰かを助けることができている。支えられているだけでなく、巡り巡って誰かを支えている。厳しい社会状況の中で、税金を通して、人と人の繋がりが感じることが出来た。

税と聞くと、支払うことに対してマイナスに捉えてしまう人が多いと思う。実際私もそのうちの一人だった。しかし、税を支払うことで身近な人を、見知らぬ誰かを支えていると考えると、前向きに捉えることができるのではないだろうか。もう少しで私も税を納める年齢になる。実感した人との繋がりと感謝の思いを忘れずに、より良い社会にするために、しっかりと税を払っていききたいと思う。